

審査の結果の要旨

氏名 池田 真理

本研究は、出産後の女性が罹患する、産後うつ病の発症に影響を与える心理社会的要因影響を評価するために、妊娠後期と出産後1ヶ月の2時点において、質問紙調査と面接調査の前向き調査を行い、多変量解析を試みたものである。さらに、妊婦のアタッチメント・スタイルが産後うつ病発症に及ぼしている影響については、質的分析を行っており、下記の結果を得ている。

1. 単変量解析の結果では、婦人科疾患の既往、妊娠体験のうけとめの「悩ませるもの」、「気持ちが高まるもの」、妊娠後期の抑うつ、及びアタッチメント・スタイルが、産後うつ病の発症に関連した要因であることが明らかになった。
2. 単変量解析によって産後うつ病と関連があった要因、及び本研究の概念モデルの理論上、必要とした要因を独立変数とした多重ロジスティック回帰分析を行った結果、有意に関連していたのは、暮らし向き、妊娠後期の抑うつ、アタッチメント・スタイルであった。暮らし向き、妊娠後期の抑うつについては、これまでの研究でリスク要因として報告されているところであり、本研究の対象者に関しても同様の結果が得られた。
3. 本研究で、あらたに加えたアタッチメント・スタイルの不安定さが産後うつ病の発症に影響を及ぼす事が明らかになった。また、アタッチメント・スタイルをリスク要因に含める多重ロジスティック回帰モデルの方が産後うつ病の予測性を高めることが確認できた。
4. ASIと産後面接の質的分析を行った結果、産後うつ病を発症した者は、①夫に対して妊娠・出産・育児についての打ち明けを、気持ちを含めてしていない、②打ち明けたことに対して、夫の共感的な応答が少ない、③出産後の生活に夫が単身赴任などで不在（物理的距離）、④自己信頼が高く、自分だけで物事を対処したいスタイルを持つ、⑤育児が予想以上に大変で負担に感じていたり、期待したサポートを周囲から得られなかった、⑥出産時に児に医療的介入が必要だった、⑦出産後の自身の体調回復が予想以上に時間がかかったといった特徴が明らかになった。

5. 引っ込み型の方は、出産までは人に頼らず物事を処理できていても、産後は情緒的・実質的なサポートが必要となり、それを適切に希求できずにいると産後うつ病になる可能性があり、他の非標準型と同様に産後うつ病を発症するリスクがあることが分かった。一方、引っ込み型でも出産を機に夫や重要他者に打ち明けができ、その時に適切な情緒的応答を得た者は、産後うつ病になっておらず、それまでのアタッチメント・スタイルを肯定的な方向へ変化させた可能性が示唆された。
6. 本研究は、妊婦のアタッチメント・スタイルを妊娠期から把握することによって、それぞれの妊婦のアタッチメント・スタイルに添った心理社会的支援の可能性を示唆した。

以上、本論文は産後うつ病において、個人の属性、産科的要因、及び心理社会的要因の影響を明らかにした。産後のメンタルヘルスに及ぼす影響として対人関係であるアタッチメント・スタイルに着眼した点で独創的であり、これまで本邦において報告がなかった妊婦のアタッチメント・スタイルと産後うつ病の関連を明らかにし、妊婦の心理や行動の理解や支援のあり方に対して重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。

最終試験の結果の要旨

氏名 池田 真理

試験は平成 23 年 1 月 17 日に東京大学医学部 3 号館 3 階 S308 号室（精神保健学講義室）において行われた。審査委員は論文提出者に対し、学位請求論文の内容および関連事項について質問と討議を行い、本人の学識と提出論文を審査した。その結果、全員一致で最終試験に合格と判定した。